

1. 感謝黃立芸、黃土珊、板倉聖哲、王靜靈、盧慧紋所提供的資訊。
2. 目前原則上固定於每周五寄發，包括展覽、演講、會議議程與徵文、網路資源、研習營等訊息，歡迎大家多多貢獻資訊。
3. 若有與中台藝術史或文化史相關的研究、演講、展覽、或會議之訊息，不論來自何地，都歡迎提供，我會將之轉給大家。雖然未必能與會，分散於天涯海角的我們卻可對各地情況有所瞭解。
4. 最新訊息以紅色標示，內容包括中(Big5)、英、日文(IME)碼。
5. 本期更新：**展覽**、**演講**、**研討會**、**工作坊**、**call for paper**, 網路資源。
6. 如有其他同好對此電子報有興趣，請告知電子郵件地址，我將加入寄送名單中。若不願收到，也請告知，以方便作業。

展覽：

■台灣

1. **國立故宮博物院**
2. 故宮南院
3. 中央研究院歷史語言研究所歷史文物陳列館

■亞洲

1. 浙江省博物館
2. **廣東省博物館**
3. 江西省博物館
4. 上海龍美術館
5. 故宮博物院
6. 北京清華大學博物館
7. 蘇州博物館
8. 寧波博物館
9. 香港藝術館
10. **東京國立博物館**
11. **書道博物館**
12. 大阪市立東洋陶瓷美術館
13. **江戶東京博物館**
14. **根津美術館**

■歐美

1. Nelson-Atkins Museum
2. The Metropolitan Museum of Art

3. China Institute

台灣

1. 國立故宮博物院

1) 書畫家的幽默感

展期：2017/ 1/01~2017/ 3/26

陳列室：北部院區 202,208

2) 筆有千秋業

展期：2017/ 1/01~2017/ 3/26

展覽區 204/206

3) 名品聚焦－清人鳥譜

展期：2017/ 1/01~2017/ 3/26

展覽區 202

4) 酉年大吉－畫雞名品特展

展期：2017/ 1/01~2017/ 3/26

展覽區 212

5) 造型與美感－中國繪畫選粹

展期：2017/ 1/01~2017/ 3/26

展覽區 210

6) 勤修無逸－嘉慶皇帝文物特展

展期：2017/01/07~2017/06/18

展覽區 103

7) 覺翁書畫－傅狷夫先生家族捐贈文物特展

展期：2017/01/25~2017/04/25

展覽區 105,107

8) 翠綠邊地－清季西南邊界條約及輿圖

展期：2016/ 12/10~2017/ 6/28

展覽區 104

9) 若水澄華-院藏玻璃文物特展

展期：2016/08/31-

北部院區 展覽區一 304

10) 集瓊藻—院藏珍玩精華展

展期：常設展 2014/08/01~

陳列室：展覽區一 106

<http://www.npm.gov.tw/zh-TW/Article.aspx?sNo=04005700>

11) 貴似晨星—清宮傳世 12 至 14 世紀青瓷特展

展期：2015/12/25~2017/04/28

陳列室：展覽區一 203

12) 皇帝的鏡子—清宮鏡鑑文化與典藏

2015/03/31-2017/2/28

陳列室：303

2. 故宮南部院區

1) 佛陀形影—院藏亞洲佛教藝術之美

常設展

S303 佛教藝術展廳

2) 芳茗遠播—亞洲茶文化展

常設展/ S202 茶文化展廳

<http://south.npm.gov.tw/zh-TW/NormalExhibition>

3) 錦繡繽紛—院藏南亞織品展

展期：2015-12/28-2016/11/16

陳列室：S304 織品文化展廳

4) 「日本美術之最：東京國立博物館暨九州國立博物館珍藏展」

105 年 12/10 至 106 年 3/5

包括日本繪畫、佛教雕刻、陶瓷、漆器、圖書、文獻等約 150 組件，其中含日本國寶、重要文化財、重要美術品計 68 件。亦有多件中國藝術品。展覽說明與展件清單請見：

http://jpartm.npm.gov.tw/list.php#_sec0

3. 中央研究院歷史語言研究所歷史文物陳列館

1) 綦青繚白—安陽隋唐墓瓷器特展

展期：2016 年 10 月 29 日起

展區：二樓特展區（207 室）

http://museum.ihp.sinica.edu.tw/exhibition_detail.php?id=45

亞洲

1. 浙江博物館

1) 漂海聞見·15 世紀朝鮮儒士崔溥眼中的江南

展覽時間:2016-11-16—2017-02-12

展覽地點:武林館區地下一層展廳

http://www.zhejiangmuseum.com/zjbwg/exhibition/zt_detail.html?id=195&ztype=1

2 廣東省博物館

1) 薈雅南州——明代廣東文人的藝術與生活

展出時間：2016-9-9 至 2017-2-28

展出地點：三樓展廳三

2) 相看兩不厭——館藏明清瓷畫與繪畫的對視

2016-10-25 至 2017-2-26

展出地點：三樓展廳一

3)玉鳴鏘鏘——商代王后婦好玉器特展

2016-12-26 至 2017-3-26

三樓書畫廳

1976 年，在舉世聞名的安陽殷墟，商代“中興之主”武丁之妻、傳奇王后“婦好”之墓發掘出土。墓內數量龐大的隨葬器物，猶如商王朝的一座寶藏，向世人敞開大門。這其中，除了能與甲骨卜辭資料相印證墓主身份、史料價值重大的帶銘青銅器外，最引人矚目的莫過於 750 余件精美絕倫的玉器，這是中國古代玉器的一次重大發現。

在婦好墓發現四十周年之際，2016 年 12 月 27 日至 2017 年 3 月 26 日，廣東省博物館、中國社科院考古研究所聯合舉辦《玉鳴鏘鏘——商代婦好玉器特展》。本次展覽是婦好墓出土玉器的首次集中展示，同時也是廣東省博物館所舉辦的規模最大的玉器專題展覽。玉器數量共計 716 件（套），類別主要包括琮、圭、璧、環、玦、簋等玉禮器，戈、矛、鉞等玉儀仗兵器，斧、鏃、刀、紡輪等玉工具，調色盤、梳、耳勺等玉生活用具，各種人物、動物形象的玉藝術品，以及筭、鐲形器、柄形飾、墜飾、圓珠等玉裝飾品等，種類齊全，造型多樣，形態優美，線條流暢，雕刻工藝極為講究，雖在地下埋藏了三千餘年，其光澤大多依然晶瑩溫潤。其中如白玉簋、玉戈、玉戚、對尾玉鸚鵡、玉鴟鵂、龍形玉玦、玉人、玉梳等，堪稱精品。

展覽分為五個部分。第一部分“發現婦好”，介紹婦好墓的發掘情況以及婦好身份的釋讀；第二部分“參與國事”，通過莊嚴而凝重的玉禮器以及玉儀仗武器，展現婦好參與祭祀、征戰、內政外交等商王室的事務；第三部分“繽紛生活”，通過大量雕飾精美的玉裝飾器、生活用器及藝術品，反映了婦

好的繽紛精緻生活以及高貴的審美、收藏情趣；第四部分“香消玉殞”，展現婦好的離世以及致喪、落葬、祭奠的情況；第五部分“好玉之謎”，介紹婦好玉器相關的材質、工藝方面尚待研究的問題。整個展覽圍繞婦好墓出土玉器，從“國”、“家”、“生”、“死”、“迷”的策展視角，結合豐富的圖文資料以及視頻、多媒體、互動遊戲等多種輔助展示方式，全面勾勒出玉器背後所反映的婦好形象及其事蹟。

3. 江西省博物館

海昏侯國考古成果展

2016/10/11--

4 上海龍美術館

敏行與迪哲—宋元書畫私藏特展

10月28日起到2017年3月31日

80餘件早期書法、繪畫、古籍善本珍品

由劉益謙、王薇夫婦所共同創辦的中國上海「龍美術館」，於「西岸館」，舉辦「敏行與迪哲—宋元書畫私藏特展」，展品包括80餘件宋元書法、繪畫、古籍善本等珍品。主辦方表示，其中有約一半是來自龍美術館本身的館藏，另一半則來自海內外20餘位藏家。

展品有許多都是近年來陸續現身於各地拍場的高價作品，如東晉王羲之〈草書平安帖卷〉、〈唐后行從圖軸〉、北宋蘇軾〈功甫帖〉（立軸）、北宋曾鞏〈局事帖冊頁〉、北宋徽宗〈寫生珍禽圖卷〉、南宋蕭照〈瑞應圖卷〉、南宋馬遠等〈宋帝命題馬遠繪山水冊頁〉、南宋朱熹與張景修等〈宋名賢題徐常侍篆書之跡卷〉、元代林子奩（即台北故宮藏〈元人集錦卷〉作者之一的林卷阿）〈關風圖卷〉、元末明初宋克〈章草急就章卷〉等書畫作品；以及北宋古籍刻本《西湖吉蓮社集》等。

展覽子題區分有「帝制文心」、「恪悟教禮」、「隱逸修身」、「尚意求道」四部分，企畫以12個章節來表現「敏行聖人之道」，即千年以來中國的私人收藏傳統。

5 故宮博物院

1) 明清御窯瓷器：故宮博物院與景德鎮陶瓷考古新成果展

2016.10.25-2017/2/26

6. 北京清華大學博物館

1) “清華藏珍”——清華大學藝術博物館藏品展

展覽時間：2016年9月11日起 常設展

展覽地點：清華大學藝術博物館四層9-13號展廳

展覽囊括書畫、織繡、瓷器、傢俱、青銅器五個藝術門類。

2) “尺素情懷”—— 清華學人手笥展

展覽時間：2017年1月1日—2017年3月31日

展覽地點：清華大學藝術博物館二層4號展廳

3) “竹簡上的經典”—— 清華簡文獻展

展覽時間：2016年9月11日—2017年3月10日

展覽地點：清華大學藝術博物館四層8號展廳

4) “營造”中華”—— 清華營建學科專題展

展覽時間：2016年9月11日—2017年3月10日

展覽地點：清華大學藝術博物館四層7號展廳

5) “思賢師心”—— 清華大學美術學院藝術大家作品展

展覽時間：2016年9月11日—2017年3月10日

展覽地點：清華大學藝術博物館四層14號展廳

7 蘇州博物館

煙雲四合——清代蘇州顧氏的收藏

展覽時間：即日起- 2017.3.12

展覽地點：蘇州博物館二樓吳門書畫展廳&負一樓特展廳

http://mp.weixin.qq.com/s?_biz=MzA5MTM1MjMxMg==&mid=2652777896&idx=2&sn=402cd43d94edd0cccdce0b2114f01ddf&chksm=8b97303fbce0b92920b6a268ba532d0591ea4cb6417baee5495fa12c7b5e077051ad311130ae&mpshare=1&scene=23&srcid=12130qfTPBypZUAjZfluAoBN#rd

<http://mp.weixin.qq.com/s/jhffAljSodp99QjI7QrEUg>

8.寧波博物館

發現——新世紀寧波考古成果展

2016/12-08-2017/03/12

http://www.nbmuseum.cn/art/2016/12/8/art_461_361.html#ad-image-0

9.香港藝術館

石渠寶笈之香江拾遺 — 香港藝術館虛白齋書畫藏品展

Lost Treasures of the *Shiqu Baiji* in Hong Kong — Selection of Chinese Paintings and Calligraphies from the Xubaizhai Collection, Hong Kong Museum of Art

2016.11.30 – 2017.3.20

地點：香港文化博物館一樓趙少昂藝術館

Venue: Chao Shao-an Gallery, 1/F, Hong Kong Heritage Museum

《石渠寶笈》是清代乾隆時期宮廷收藏的書畫著錄。自滿清覆亡，這些寶藏很多均已散落民間或佚失。展覽將展出香港藝術館虛白齋藏 13 件與《石渠寶笈》相關連的書畫作品，展覽亦會介紹《石渠寶笈》內容，以及上世紀初故宮文物經香港流散至世界各地的歷史，藉以檢視香港過去在收藏及保存中國文物的角色。由於香港藝術館現正閉館進行擴建及更新工程，展覽將於香港文化博物館展出。

Shiqu Baoji was the name given to the catalogues of the Qing dynasty imperial collection of Chinese paintings and calligraphy during the Qianlong period. Many of the works recorded in the catalogues are now scattered or lost due to the social unrest, wars and theft that accompanied the demise of the Qing dynasty. This exhibition features 13 works selected from the Xubaizhai Collection that were previously in the imperial collection. The exhibition also highlights the significant role of Hong Kong as refuge and in conservation of China's cultural heritage during the last century. As the Hong Kong Museum of Art is temporarily closed for a major renovation project, this exhibition will be staged at the Hong Kong Heritage Museum.

10. 東京國立博物館

1) 董其昌とその時代—明末清初の連綿趣味—

東洋館 8 室 2017 年 1 月 2 日（月）～2017 年 2 月 26 日（日）

明時代に文人として活躍した董其昌（とうきしょう、1555～1636）は、高級官僚として官途を歩むかたわら、書画に妙腕を発揮しました。書ははじめ唐の顔真卿（がんしんけい）を学び、やがて王羲之（おうぎし）ら魏晋の書に遡ります。さらに当時の形式化した書を否定して、平淡な書風を理想としながら、そこに躍動感あふれる連綿趣味（れんめんしゅみ）を盛り込みました。画は元末の四大家から董源（とうげん）に遡り、宋や元の諸家の作風を広く涉猟して、文人画の伝統を継承しつつ、一方では急進的な描法によって奇想派の先駆けとなる作例も残しています。董其昌は書画の理論や鑑識においても、卓越した見識を持っていました。『画禅室随筆』は、董其昌の書画に対する深い理解と理念を示すものとして知られています。

主要陳列作品:

溪山絶塵図 呉彬筆 中国 明時代・万曆 43 年（1615） 個人蔵（2017 年 1 月 15 日まで展示）

天目喬松図 藍瑛筆 中国 明時代・崇禎 2 年（1629） 個人蔵（2017 年 1 月 15 日まで展示）

重要文化財 廬山観瀑図 石濤筆 中国 清時代・17～18 世紀 京都・泉屋博古館蔵（2017 年 1 月 29 日まで展示）

重要文化財 安晚帖 朱耷筆 中国 清時代・康熙 33 年（1694）・康熙 41 年（1702） 京都・泉屋博古館蔵（2017 年 1 月 29 日まで展示）

書画合璧巻 王鐸筆 中国 清時代・順治 6 年（1649） 大阪市立美術館蔵（2017 年 1 月 29 日まで展示）

行草書羅漢賛等書巻 董其昌筆 中国 明時代・万曆 31 年（1603） 高島菊次郎氏寄贈

http://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=1839

http://mp.weixin.qq.com/s?__biz=MzIxNTY5NjQxNA%3D%3D&mid=2247484002&idx=1&sn=3c92c8489fbac13387abff41e2fdbbc28&chksm=97951713a0e29e052b81b97a924ab3f259033ad57ff0c4a4b9392b484e69b35515ec74ac2ba7&mpshare=1&scene=4&srcid=0107uFHneXBI9Eim3ysrXclK#rd

2) 上海博物館との競演

東洋館 2016年4月12日(火)～2017年2月26日(日)

上海博物館と東京国立博物館とは長年にわたる友好関係を築いてきました。今年度は「上海博物館との競演」をテーマに、上海博物館が所蔵する中国の陶磁器、染織品、青銅器、仏像、家具の名品55件をご出品頂けることとなりました。この展示を通じて、中国の文物に対する理解を深めて上海を身近に感じる機会としていただきたく存じます。

なお、秋の恒例行事となった「[博物館でアジアの旅](#)」の期間(2016年8月30日(火)～10月23日(日))には、「東博(トーハク)×上博(シャンポー) 夢のコラボ」と題して、上海博物館の作品を中心に展示します。

http://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=1809

3) 博物館に初もうで 新年を寿ぐ鳥たち

本館 特別1室・特別2室 2017年1月2日(月)～2017年1月29日(日)

当館では毎年正月に因んだ特集陳列を行っております。今年は平成29年の十二支が酉(とり)であることから、「暁の鳥」「祝の鳥」の二つのテーマのもとに、鳥を表わす美術工芸品を展示します。

日本には中国から伝えられた十二支という暦法があります。十二支は子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥という順番があり、それぞれに鼠・牛・虎・兎・龍・蛇・馬・羊・猿・鳥・犬・猪の動物を当てはめます。

まず「暁の鳥」では鶏をとりあげます。十二支の酉は鶏の姿で表現されることが通例です。黎明を告げる鶏は家禽として親しまれ、また闘鶏のような遊戯も楽しまれました。ここでは鶏をモチーフとする作品、そして鶏と人との関わりを表した作品を展示します。

そして「祝の鳥」では、幸運をよぶ鳥たちをご紹介します。鳥をモチーフとする美術工芸品には鷹・孔雀・鶴・鷺(さぎ)・鴛鴦(おしどり)などに吉祥的な意味を込めたり、あるいは人間の豊かな想像力が生み出した鳳凰やガルーダのような瑞鳥も表わされました。ここでは実在の鳥に限らず、空想鳥を含む鳥を表した作品を展示します。

4) 特別展「茶の湯」

平成館 特別展示室 2017年4月11日(火)～2017年6月4日(日)

12世紀頃、中国で学んだ禅僧によってもたらされた宋時代の新しい喫茶法は、次第に禅宗寺院や武家など日本の高貴な人々の間で浸透していきました。彼らは中国の美術品である「唐物」を用いて茶を喫すること、また室内を飾ることでステイタスを示します。その後、16世紀(安土桃山時代)になると、唐物に加えて、日常に使われているもののなかから自分の好みに合った道

具をとりあわせる「侘茶」が千利休により大成されて、茶の湯は天下人から大名・町衆へより広く普及していきました。このように、日本において茶を喫するという行為は長い年月をかけて発展し、固有の文化にまで高められてきたのです。

本展覧会は、おもに室町時代から近代まで、「茶の湯」の美術の変遷を大規模に展観するものです。「茶の湯」をテーマにこれほどの名品が一堂に会する展覧会は、昭和55年(1980)に東京国立博物館で開催された「茶の美術」展以来、実に37年ぶりとなります。

各時代を象徴する名品を通じて、それらに寄り添った人々の心の軌跡、そして次代に伝えるべき日本の美の粋をご覧ください。

11.書道博物館

1) 董其昌とその時代—明末清初の連綿趣味—

前期：平成29年1月4日(水)～1月29日(日)

後期：平成29年1月31日(火)～3月5日(日)

今回で14回目となる東京国立博物館と台東区立書道博物館の連携企画は、没後380年にあたる董其昌を中心とする明末清初の書を集めます。中国書画の流れを大きく変えた董其昌に焦点をあてながら、そのあとさきに活躍した人々の書画をご紹介します。

<http://www.taitocity.net/zaidan/shodou/oshirase/news/1039/>

12 大阪市立東洋陶磁美術館

台北 國立故宮博物院—北宋汝窯青磁水仙盆

2016/12/10-2017/03/26

本展では、中国北宋時代(960～1127)末に宮廷用の青磁を焼成した汝窯を代表する青磁水仙盆の名品をご紹介します。汝窯は「天青色(てんせいしょく)」とも形容される典雅な釉色と端正な造形を特徴とします。

今回、台北の國立故宮博物院から、汝窯の最高傑作であり、中国陶磁の名品中の名品といわれる「青磁無紋水仙盆」をはじめとした北宋汝窯青磁水仙盆4点と、さらに清朝の皇帝がその「青磁無紋水仙盆」を手本につくらせた景德鎮官窯の青磁水仙盆1点が初めて揃って海外に出品されます。そして、日本を代表する汝窯青磁である当館の青磁水仙盆と歴史的な「再会」が実現します。汝窯青磁を代表する青磁水仙盆の名品が初めて一堂に集う本展は、千載一遇の機会です。青磁水仙盆の名品を通して、歴代の皇帝たちが愛した汝窯青磁の美の真髓をご堪能下さい。

<http://www.moco.or.jp/exhibition/upcoming/?e=366>

13.江戸東京博物館

江戸と北京—18世紀の都市と暮らし—

2017年02月18日(土)～04月09日(日)

東京都江戸東京博物館 1階特別展示室

<https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/s-exhibition/special/10315/%E6%B1%9F%E6%88%B8%E3%81%A8%E5%8C%97%E4%BA%AC%EF%BC%8D18%E4%B8%96%E7%B4%80%E3%81%AE%E9%83%BD%E5%B8%82%E3%81%A8%E6%9A%AE%E3%82%89%E3%81%97%EF%BC%8D-2/>

江戸の人口が100万人を超え、都市として発達を遂げた18世紀は、北京が清朝の首都として最も繁栄を極めた時代でもありました。日本と中国には文化交流の長い歴史があり、江戸時代の「鎖国下」においても中国貿易は公認され、長崎を窓口として、文物の流れが滞ることはありませんでした。

本展では、18世紀を中心に、江戸と北京のなりたちや生活、文化を展覧し比較します。これまで清朝の芸術や宮廷文化に関する展覧会は数多くありましたが、北京の都市生活を江戸と比較する企画は、今回が初めてです。展示を通じ両都市の共通性と差異を明らかにすることによって、友好と相互理解を深める契機にいたします。

14. 根津美術館

「高麗仏画：香りたつ装飾美」

3.4～3.31

<http://www.nezu-muse.or.jp/jp/exhibition/next.html>

歐美

1. Nelson-Atkins Museum

Emperors, Scholars, and Temples: Tastemakers of China's Ming and Qing Dynasties

August 12, 2016 - July 09, 2017

Locations: Nelson-Atkins Building, Gallery 222

The paintings will be rotated after six months.

<http://www.nelson-atkins.org/art/exhibitions/emperors-scholars-temples/>

2. The Metropolitan Museum of Art

Show and Tell: Stories in Chinese Painting

October 29, 2016–August 6, 2017

Storytelling in Chinese pictorial art is the focus of the exhibition *Show and Tell: Stories in Chinese Painting*. With some 100 works dating from the 12th century to the present, drawn mostly from The Met collection, it is presented in three sections. Each section demonstrates a different narrative mode: illustrations in multiple scenes, iconic single scenes, and stories revealed in inscriptions rather than images. The selected works tend to tell more than the storylines. The gallery featuring Emperor Qianlong's East Turkestan campaign displays European-style copperplate engravings alongside portrait painting and 18th-century weaponry. Contemporary works are

included to demonstrate the genre's continuing vitality and relevance. Exhibition webpage:
<http://www.metmuseum.org/exhibitions/listings/2016/show-and-tell>

3. China Institute

Art in a Time of Chaos: Masterworks from Six Dynasties China, 3rd – 6th Centuries

September 30, 2016 – March 19, 2017

The Six Dynasties period, from the 3rd to 6th centuries, was one of the most dynamic periods in Chinese art history, akin to the European Renaissance in the impact it had on artistic creativity and the celebration of individual expression. Over the past twenty years, archaeological excavations have unearthed extraordinary works of art, forever altering scholarly understanding of this chaotic, four-hundred-year period of political upheaval, geographical division and civil strife. Not only was the Six Dynasties period a pivotal link in the historical timeline between the Han and Tang dynasties, but it is increasingly recognized for having laid the foundation for Chinese artistic standards, genres, subjects, and important themes that continue to define Chinese art today. This exhibition will present the artistic innovations and achievements evidenced by recent archaeological findings from both the Southern and Northern Dynasties across four major disciplines: ceramics, sculpture, calligraphy and painting. Each of these disciplines provides a different glimpse into daily and ritual life during this time. Through instability came great artistic innovation, resulting in the emergence of enduring subjects, genres, and themes. This exhibition will highlight these lasting elements of Six Dynasties art, allowing visitors to see and better understand the trajectory of Chinese art that continues to today.

演講

1) 故宮南院「日本美術之最展覽」系列演講

2017/01/25 10:00~12:00	東山御物と雪舟	板倉聖哲	日本東京大學	教授	東亞繪畫史	日文演講 現場口譯
2017/02/18 10:00~12:00	由「日本美術之最展」 看中日美術的表現差異	巫佩蓉	中央大學藝術史所	副教授	日本藝術	
2017/02/18 14:00~16:00	日本傳統服飾概述	黃韻如	國立故宮博物院南院處	助理研究員	織品藝術 日本茶道	

研討會

1) International Conference on Buddhist Manuscript Cultures

January 20-22, 2017

Sponsored by the Buddhist Studies Workshop and Tang Center for East Asian Art Princeton University

The keynote lecture will be given by Matthew T. Kapstein (École Pratique des Hautes Études) and the conference discussant will be Charles Hallisey (Harvard University). Paper-givers and respondents include Heather Blair (Indiana University), Paul Copp (University of Chicago), Agnieszka Helman-Ważny (Hamburg

University), Susan Huang(Rice University), Bryan D. Lowe (Vanderbilt University), Christine Mollier (Centre national de la recherche scientifique), Nathalie Monnet (Bibliothèque national de France), Asuka Sango (Carleton College), Kiril Solonin (Renmin University), Brian Steininger (Princeton University), SUGIMOTO Kazuki (Shosoin Treasure House), Stephen F. Teiser (Princeton University), San Van Schaik (British Library), Zhanru(Peking University).

The conference is free and open to the public but pre-registration is required by December 15, 2016

<http://csr.princeton.edu/buddhistmanuscriptcultures2017/>

2) Writing and Picturing in Post-1945 Asian Art

University of Chicago

April 21-23, 2017

<https://lucian.uchicago.edu/blogs/writing-and-picturing/>

工作坊

1) The Chinese Book as a Material Object

A four-day workshop at the Harvard-Yenching Library

May 16-19, 2017

With the sponsorship of the Bibliographical Society of America, the Fairbank Center for Chinese Studies, and Andrew W. Mellon Fellowship of Scholars in Critical Bibliography at the Rare Book School, we are pleased to announce a four-day workshop on the descriptive bibliography of the Chinese book. By bringing the study of Chinese editions into conversation with Western bibliography, this workshop will provide training in new methods for accurately analyzing, describing, and identifying the distinctive material characteristics of the Chinese xylographic print. Participants will be invited to engage actively in all the workshop sessions, which will be facilitated by Cynthia Brokaw (Brown University), Devin Fitzgerald (Harvard), and David Helliwell (Bodleian Library).

Day one will be dedicated to the comparative study of western bibliographic methods and the practice of the study of Chinese editions.

Day two will focus on the major features of printed books from the Song through the Qing.

Day three will focus on various rare-book catalogs and the production of accurate catalog entries.

Day four will be dedicated to the relationship between the digital text and the print book.

This workshop is free of charge, but participants are responsible for their own travel and accommodations. We invite graduate students and junior scholars with interest in the history of Chinese printing to apply.

Please send a two-page statement of interest describing how this workshop relates to your research, and your CV (three pages max) to chineserarebooks@gmail.com by January 15, 2017.

Call for Paper 徵求論文

明清研究國際學術研討會

「中央研究院明清研究推動委員會」擬於 2017 年 12 月 18-20 日舉辦明清研究國際學術研討會，提供學界同仁知識交流的平台。本次會議將公開徵求論文，我們歡迎明清時段各領域具原創性研究的論文前來投稿。http://mingching.sinica.edu.tw/News_Detail/884

網路資源

1) 故宮 Open Data 專區

國立故宮博物院為提升政府資料開放品質、促進故宮資料在教學及個人賞析上之傳播，特別自 104 年起更新「故宮 Open Data 專區」，提供文物圖像及文物基本資料在教學用途範圍內免費下載。同時，也整合了原有文字性和數據性資料的資料集，也歡迎各界多加利用。

<http://theme.npm.edu.tw/opendata/>

2) 明實錄、朝鮮王朝實錄、清實錄資料庫

中央研究院歷史語言研究所與韓國國史編纂委員會合作

<http://hanchi.ihp.sinica.edu.tw/mql/login.html>

3) 「東アジア出版文化研究資料画像データベース」

東北大学東北アジア研究センター

<http://epub.cneas.tohoku.ac.jp/epub-db/>

4) 中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト

<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/index2.html>

東京大学東洋文化研究所 東アジア美術研究室では、過去約半世紀に渡って国内外の中国絵画コレクションの悉皆調査を継続的に行ってきた。その成果が『中国絵画総合図録』正編5冊・続編4冊である。1982年に正編の刊行が開始され、2001年に続編が完結した。その対象は中国大陸の所蔵機関・個人及び台北故宮博物院を除く世界中の全ての地域に存する中国絵画である。図版入りの図録が出版される前に東洋学文献センター（現在の東洋学研究情報センターの前身）よりセンター叢刊の形で目録が出版されている。

この出版の基礎になった写真資料が全て東京大学東洋文化研究所に蔵され、調査カードの形で国内外の研究者に公開されている。

	第1回調査	第2回調査
4×5inch モノクロ ネガ	16,797 枚	8,953 枚
35mm モノクロ ネガ	18,312 枚	24,756 枚
35mm カラー ポジ	18,115 枚	17,292 枚

この中国絵画写真アーカイブは複写による写真資料を含めれば 20 万点に及び、その充実は世界随一と称して過言ではない。

『中国絵画総合図録』正編の反響は非常に大きく、この形式が一典型となって、中国大陸（中国古代書画図目）・台北故宫博物院（『故宫書画図録』）それぞれのカatalog・レゾネの出版を促した。これらの出版によって世界中の中国絵画の所在情報が明らかにされたのであり、ここにいたって初めて世界に現在どのような中国絵画が何処にどのくらいあるか、その大きな全容が見えつつあるのである。それは、すなわち、美術史学に必要な学問の土台がやっとできたとも見なせよう。

当研究室及び附属東洋学研究情報センター造形部門では、1999 年度、センター発足と同時に中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクトを開始した。まずこれらの調査資料をデータベース化し新たな整理の基礎とすると同時に、調査の際撮影された作品のフィルムの保存のためにデジタル化を行っている。又、これまでの蓄積をさらに拡大するために中国絵画の現地調査をその対象範囲を広げて継続的に行っている。

ここに試験公開する中国絵画所在データベースは、研究者のさらなる利便を図るため、蓄積された調査資料の書誌データに基づき作成したものである。現在では、正編・続編共にデータの検索が可能である。